

今月も会主さまの教えに基づきながら、私が頂戴したありがたい体験を交え、お話をさせていただきます。

最初に、私たちは「因縁」に対して、古くから歴史あるものが、非常に因縁が深いと思いがちです。しかし、それ以上に因縁が深いのは、人間が集まるところです。例えば、山奥のようなところよりも、都会のような、人間がより多く集まるところほど、私たちの欲、生き霊、嫉妬といった悪いものが集まり、因縁が深くなります。

それを受け止めるのが妙智會であり、聖地であり、この本部です。そして、私たち自身が、きちんと会主さまの教えを守ることが大切であると頂戴しました。

次に、肉体が私たちで、心が先祖ならば、「回向」という教えは非常に意味深いものである、ということをご頂戴しました。ご先祖さまに対しての私たちの行いが、「功德」として戻ってくる。これが回向の意味です。

肉体を持っている私たちの行ないで、ご先祖さまが変わるということ。このことを私たちは、お経の時に「回向唱」を上げることで、教えて頂いています。

しかし私たちは、お経を上げればみんな成佛できる、生院徳の法名をつけてお経を上げていけば、因縁の軽いご先祖さまから成佛ができると、簡単に思ってしまう。

会主さまから頂いた、どんなに尊い生院徳の法名をつけても、その法名に対して心が軽く、ただつけばいいという軽い根性、振る舞いをすることによって、せっかく成佛の道に入ったご先祖さまが、戻ってきてしまいます。

そういう行いが、悪い方の「回向」となり、結果的にご先祖さまを苦しめてしまうのだ、ということをご頂戴しました。

次に、大導師さまは「言葉遣い」の大切さを、「和顔愛語」という表現で、私たちに指導されました。

よく会主さまは、非常にフランクな言葉遣いをされていました。しかしそれは、会主さまの相手を思う、その素晴らしいお気持ちが元にあるから通用したものです。

それを、私たちも会主さまと同様に、会主さまのような言葉遣いで、信者さんに対して慈悲をかけるということは、これは大間違いです。それは相手にとって失礼なことで、私たちは会主さまの弟子であり、会主さまと同じような言葉遣いで接してはいけません。

言葉遣いというのは非常に大切で、どんなに尊いことも、言葉遣いによっておかしくなってしまうということも、この度頂戴しました。

最後に、私は今、妙智會の「人格完成に努力する」という、「いい人になりましょう」という指導を、強く頂いています。「いい人」というのは、「法にかなった人」のことです。

ぜひ、1人1人が、会主さまのこの尊い教えを頂いて、どういう振る舞い、どういう言葉遣いをしていけばいいのかを、考えて頂きたいと思います。その行いによって、どれだけ先祖が喜ぶか、先祖の道が決まるのです。

そして、私は信者皆さん1人1人とのご縁で、これからも修行をしていきます。事務局員も、好き嫌いを持たずに修行をさせたいと、強く思っています。私も頑張りますので、妙智會は尊い、会主さまは尊いお方ですので、ぜひ一緒に歩いてください。